

風水害に備える。

くわしくは
総務課 危機管理放射能対策室 ☎(21)5166

毎年、日本各地で台風や大雨による災害が発生し、尊い命が失われています。

市内でも、豪雨による土砂崩れや河川の氾濫などの災害が何度も発生しています。また、雨が降り続くことにより地盤が緩み、土砂災害が起こりやすくなります。

過去の災害からの教訓を踏まえ、風水害への備えを行いましょう。

『台風が来る前に』

台風は、暴風雨や高潮、高波など、さまざまな被害をもたらします。しかし、台風は突発的に発生する地震などと違って、発生してから接近するまでに時間的な余裕があります。

台風が発生したときは、被害を最小限に抑えるため、テレビやラジオなどの気象

情報に注意し、進路や強さなどをよく把握しておきましょう。

『突然の集中豪雨』

短時間に、狭い範囲で突然降る集中豪雨は、気象レーダーなどでは捉えにくい現象なので、情報が提供されるまでに時間が掛かり予測が困難です。

そのため、日ごろから備えを万全にしておき、大雨の情報を得たらすぐに対処



できるようにしておきましょう。

『土砂災害の特徴と前ぶれ』

①地滑り

●特徴
○粘土などの滑りやすい層を境に、その上の土がそっくり動きだす。

●前ぶれ

○地面にひび割れができる
○地面の一部が陥没する
○沢や井戸の水が濁る
○崖や斜面から水が出る

②斜面崩壊

●特徴

○崖崩れ、山崩れなどが、突発的かつ急速に起こることが多い。

●前ぶれ

○小石がバラバラと落ちてくる。
○崖から水が湧いてくる。
○崖にひび割れができる。

③土石流

●特徴

○土砂と水が一体となって流れ落ちる。昔から「山津波」や「鉄砲水」などと呼ばれている。

●前ぶれ

○山鳴りや木立の裂けるような音、ドンといった音がする。

○雨が降り続けているのに、川の水が急に減り始める。
○川の水が濁ったり、倒木が流れて来たりする。

『日光市電話応答システム』

県のシステムを利用して、雨量情報や河川水位情報を得ることができます。



台風が接近している時や集中豪雨などの際には、早めに情報を収集して対策を立てましょう。

●得られる情報

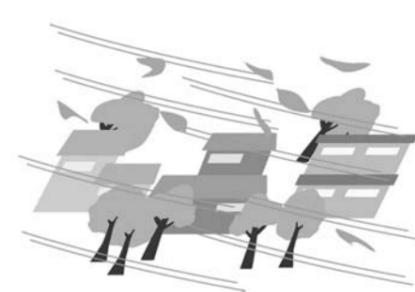
○市内の雨量や河川の水位などに関する情報など
●電話番号
(☎)2147・2148・2149

●緊急情報メールの配信

市は、携帯電話会社のシステムを利用した緊急速報メールを導入しています。これにより、気象庁が配信する緊急地震速報に加え、市からの災害・避難情報を配信します。

『データ放送での災害情報の配信』

市は、とちぎテレビのデータ放送を利用して、災害時に避難勧告などの緊急情報を市民の皆さんにお知らせします。



『県からの災害に関する防災メール配信』

●配信される情報

○地震情報(震度4以上)
○気象警報・注意報
○火山情報
○県からのお知らせなど
※サービスは無料です。ただし、メール着信時のパ

❖「風水害に対する備え」チェックシート❖

普段の準備

- 側溝や排水口の掃除をして水はけを良くしておく
- 避難場所と避難経路を確認しておく
- 家族が離れ離れになったときの集合場所を決めておく
- 非常持ち出し品を準備しておく
- ※非常食、救急医薬品、携帯ラジオ、懐中電灯、予備電池、衣類、携帯ボンベ式コンロなど
- 屋根瓦やテレビアンテナのずれ、ブロック塀のひびなどの不具合がないか点検・修理する

台風の接近や大雨による災害の恐れがある場合は

- 気象情報に注意する
- 風で飛ばされそうな物を固定する
- 窓や雨戸をしっかりと閉め、必要に応じて板を打ち付けるなどの補強をする
- 床上浸水の恐れがある時は、生活必需品を高い場所へ移す

避難する場合には

- ガスの元栓を閉め、電化製品の電源を切り、戸締りをする
- ヘルメットや安全帽で頭を保護する。靴は丈夫で底の厚いものにする ※長靴は水が入ると歩きにくい
- 崖崩れや土石流が起こりやすい場所・河川には近づかない
- 引き続き気象情報や注意報・警報に注意する



うかじまさたか 宇梶政孝 主査

ネット通信料などは、登録者の負担となります。左のQRコードまたはメールアドレスに空メールを送信して、登録してください。



QRコード

●ドコモの携帯の場合

bousai-tcgp-entry@mail-i-anshin.dcm-dc.biz
bousai-tcgp-entry@mail-anshin.dcm-dc.biz

●ドコモの携帯以外の場合

bousai-tcgp-entry@mail-anshin.dcm-dc.biz
※詳細は、県ホームページ
(http://www.bousai.bousai.pref.tochigi.lg.jp/bousaiMail/bousaimail.htm)をご覧ください。

『今』災害に備える

「災害は忘れた頃にやってくる」という有名な言葉があります。ただ、最近では、忘れる間もなく、頻繁にさまざまな災害が起こっています。

防災対策は、平常時の備えと災害をイメージし、どう動くかを考え、対策を講じておくことが重要です。

広報にっこう6月号と一緒に配付した「わが家の防災行動マニュアル」を活用し、災害から自分や家族の命と地域を守るため、家族そろって防災について話し合っていただければと思います。

防災・減災の第一歩は、自分の周りから。災害はある日突然、予告も無しに起こります。来るべき災害に、いつ備えるのか!? 今です!